

海外留学のアドバイス

現在、私は昭島市が主催するシニア向け英会話教室の講師を務める傍ら、地元の中学校で一部生徒の英語学習の支援、それに元の職場で海外留学アドバイザーとして留学やワーキングホリデーに行く学生・社会人のアドバイスにあたっています。海外では9月に新学期が始まるところも多い。そこでいつも感じている大事なポイントを現場からお伝えしてみましよう。

まず、留学の目的をはっきりさせること。現地で何をしたいのか、語学、例えば英語であればどこまでのレベルアップを図りたいか等、帰国後のTOEICやTOEFLの獲得スコアの目標を作っておけば励みにもなります。そのためには、留学前に日本で文法をしっかり身につけてください。留学先で文法はその言語（例えば英語）で説明されます。ですからその英語がわからないと何もわからない。文法はネイティブよりも日本語でしっかりと学んでいくこと。そうすれば現地での会話の上達も早くなります。



大事なことは、せっかく留学するのだから恥ずかしさを捨て積極的にしゃべりまくることです。かつて私が定年後に留学していたスペインのマラガ大学のクラスでは、いつも担当の先生が言っていました。

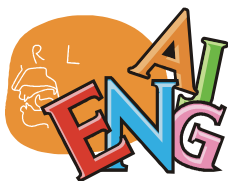
「日本からの学生はなかなか発言しようとしません。だから何を考えているのか分からない」。また人気のあった年配の先生はいつも辛口で訴えていました。「学校では授業中はもちろん、休み時間でも絶対に日本語をしゃべってははいけません！」。日本からの留学生が数人いると、すぐにグループを作り日本語で話し合ってしまうからです。

そこへいくと、北欧やアメリカ、さらにアフリカなどからの留学生は、どんどん発言していました。日本人よりも文法の知識も低く下手なスペイン語にもかかわらず、です。間違ってもよいからクラスでも街中でもどんどん話していくこと、自分の履修している外国語を試していくことがポイントです。

現地での生活がうまくいかなかった人の多くは、日本の価値観をそのまま外国にも適用している傾向があります。外国では当然、文化や生活慣習も異なるわけです。いろいろな面で勝手が違い、現地の悪い面ばかりが目につくことがあるかもしれません。

「〇〇は日本の方がはるかに進んでいる。××のサービスもなっていない」などと、不満ばかり並べても解決しません。その地方にはその地方の伝統や習慣、やり方があり、それがその国、地方のリズムに合っているのです。それらに溶け込み、そのリズムに乗って、その違いを楽しむくらいの心がけが大事でしょう。

また、帰国後に外資系の会社や英語を使う日系企業に入りたいと思っている人もいますが、現実には甘くありません。3~4年の留学ならですが、半年か1年でそのレベルまでは至



難に近い。そこで皆さんにお話しするのは、「留学先でネイティブと話した」という自信の土台に、帰国後に数年間“寝ずに” くらいの決意で勉強すること——そうすれば夢の実現に近づくこともできるということです。

ただし留学の成果は語学だけではありません。滞在する国の文化や歴史を知り、他国からの留学生との交流を通して異なった考え方や生き方に触れ、自分の世界が広がるのが大きな収穫。それに親から独立して“一人で生きてきた”という苦勞体験が自分を強くし自信を与えてくれます。

夢が、志が人を創ります。大きな夢と志は大きな人生を創ります。自分を高めていくのも、貧しくさせていくのも、私はこの心次第だと思います。世界には経済的なものだけでなく、もっとエキサイティングで大事なことがいっぱいあります。そんな異質な文化や生き方に感動し、啓発され、自らの世界が広がるのが留学の一面とも言えるでしょう。



若い間は **Having** よりも **Being** が大事なのです。財産や貯金を持っているより、今、何をやろうとしているか。財布にいくら入っているかが問題ではない。心にどんな夢を描いているかが問題なのです。

すべて本人の意思と取り組み方次第。“Where there is a will, there is a way” なのです。